

STAGE+を楽しむ(43)(HP 収載)
—アームストロング鍵盤音楽年代記(3)—

1. 始めに

前報(42)に引き続き、STAGE+のアームストロング鍵盤音楽年代記の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、アームストロング鍵盤音楽年代記の演奏を選びました。

アームストロング 鍵盤音楽年代記 1820-1920 Visions

東京・春・音楽祭 2023

収録日: 2023年4月8日

圧倒的なレパートリーの広さと高い技術、そして膨大な知識を有する稀有なピアニストであるキット・アームストロング。「東京・春・音楽祭」の公演である「鍵盤音楽年代記」は全5回のシリーズで、アームストロングならではの視点から鍵盤音楽史を深く辿ることができるものです。第4回はショパンやドビュッシー、シェーンベルクに加え、オースタインのトーンクラスターも含む《飛行機に乗って自殺》までもが並びます。ピアノという楽器の大きな発展と共に楽曲も飛躍的な進歩を遂げていったことがお分かりいただけることでしょう。

ソリスト:

キット・アームストロング (ピアノ)

曲目:

フレデリック・ショパン 夜想曲 op.15

フレデリック・ショパン 夜想曲 op. 27 より 第2番変ニ長調

クロード・ドビュッシー 映像第1集 L. 110

フランツ・リスト 超絶技巧練習曲 S. 139 より

ガブリエル・フォーレ 夜想曲第6番変ニ長調 op. 63

フランツ・リスト 《モショニの葬送》 S. 194

フランツ・リスト 《死のチャールダーシュ》 S. 224

フランツ・リスト 《暗い雲》 S. 199

アルノルト・シェーンベルク 6つの小さなピアノ曲 op. 19

レオ・オルンスタイン 《飛行機に乗って自殺》 S006



今回は、アームストロング鍵盤音楽年代記の4回目のプログラムです。

ショパンの2曲、ドビュッシー、リストと続きますが、詩情あふれるショパン、印象派の絵画を見るようなドビュッシー、ドラマティックなリストと、アームストロングが表情の異なる曲を描きわけています。ピアノはベーゼンドルファーですが、ベーゼンドルファーのショパンも格別の印象です。

瞑想的なフォーレの後は、陰鬱でおどろおどろしく、聴いたことのないリストの3曲が続きます。

シェーンベルクとオルンスタインは初めて聴く現代曲です。

前々報(41)のバロックから今回の現代曲まで鍵盤音楽の歴史を辿ってきたわけですが、アームストロングは実に器用に時代の背景までとらえたかのような演奏を披露しており、LAN iSilencer の追加もそういった演奏の内容を伝えることに寄与しています。



以上